◆2022年2月の新刊　　**日本キリスト教団出版局**

『信徒の友』に掲載された信仰詩などを収めた詩人 中山直子の詩文集

二羽の小鳥

信仰の尽きぬよろこび

2022年 2月25日 刊行予定

※300部の限定配本につき、ご注文が多い場合は冊数調整させていただきます。

中山直子（なかやまなおこ）著

1943年東京生まれ。慶應義塾大学文学部哲学科卒業。同大学大学院哲学科博士課程修了。元フェリス女学院大学、明治学院大学非常勤講師。1997年『讃美歌21』（日本キリスト教団出版局）のドイツ語歌詞の翻訳（ドイツ語）に協力。2018年度、同局発行『信徒の友』誌の巻頭の「祈り」を担当。

内村鑑三に師事した祖父のこと、旧ソ連に家族で暮らしたこと、ミッションスクールの大学教員として教壇に立ったこと、詩をとおした韓国との交流……。すべては主の御計らいであった。詩人、中山直子が詩とエッセーで主の恩寵をうたいあげる。

四六判・上製・186頁・定価1,980円（本体1,800円＋税）

ISBN978-4-8184-1099-2　C0095

目次

推薦のことば……小島誠志

Ⅰ部　季節の詩／詩と詩篇
4月の詩／5月の詩／6月の詩
7月の詩／8月の詩／9月の詩
10月の詩／11月の詩／12月の詩
1月の詩／2月の詩／3月の詩

Ⅱ部　エッセー
言葉が違うということ
プロイセンの軍服
「かく誘ふものの何であらうとも」
——伊東静雄の詩と転職
絵の先生——心と名前
大波の上に出ようとしないで
ボヘミアの田舎道
芸術は長く　人生は短し
人形の食事
クリスマスのあかり
古い讃美歌の本
仇に恩を返すということ
——日韓併合百年の年に創造文藝文学賞を受けて
忘れ得ない言葉

あとがきにかえて
この詩文集をつくった私のものがたり

——— 推薦のことば ———

中山直子さんの詩は天に土台が据わっているのです。
地上のすべての出来事はどんなに不条理に見えても、悲しくても
天からの光によって浄化されるのです。

小島誠志（日本基督教団久万教会牧師）